

CSWの可視化

和泉市では市内8カ所に身近な福祉の相談窓口として「いきいきネット相談支援センター」を開設し、それぞれにCSWを配置しています。

和泉市の大きな特徴の一つは、CSWの『活動の可視化』に力を注いでいることです。

「CSWって名前は知っていても、どんな相談にのってくれるの？」という声が事業を始めて10年経った今でも聞かれ、地域で十分に認知されているとは言えません。そこで今年4月、活動周知とネットワーク強化のための専用ホームページを作成。8人のCSWが当番制で活動の実際をわかりやすく発信しています。さらに、CSWのロゴや担当地域の地図をプリントし

たお揃いのポロシャツをつくり、校区社会福祉協議会や民生委員等の行事や会合などに積極的に出向き、活動紹介のプレゼンテーションを実施しています。



美味しくて顔も覚えられる！CSWキャンディも作成

学生と取り組む居場所づくり

2つ目の特徴は、桃山学院大学との協働による『居場所づくりプロジェクト』の実施。CSWと学生が対象者と関わる中で、個別の支援プログラムを作成し、社会とのつながりや自立のサポートをしています。

事例

仕事上の人間関係が原因でひきこもっていた精神疾患のあるAさん。親の介護をしており、作業所に行くのも週1回のみ。自分のことには、まったく力を注げなかった。しかし、学生と出合い2回、3回と関わりを重ねていく中で徐々に明るさを取り戻し、会話も活発になった。さらに、共通

和泉市

CSWをご存知ですか？ 孤立した人を支えるために

大阪府では、平成16年度から制度の狭間やさまざまな福祉課題を抱えるなど、既存の福祉サービスだけでは対応が困難な方々の課題解決に取り組むコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を概ね中学校区等のエリアに配置し、地域における発見・つなぎ・見守り機能の強化を図ってきました。現在、約180人のCSWが府内の市町村社会福祉協議会や福祉施設などに配置されています。今回は、和泉市で活躍するCSWの取り組みを紹介します。

府民児協連 地域福祉部会

『福祉と共生のまちづくり研修会』開催 「生活困窮者支援」をテーマに

平成26年12月8日に行われた「福祉と共生のまちづくり研修会」では、141人の民生委員・児童委員（以下、民生委員）が基調講演と事例報告を通じて、生活困窮者支援と民生委員の役割や関係機関との協働について考えました。

中島麻也子さんからは、CSWの役割や民生委員と連携して取り組んだ3事例が報告されました。

豊中市第2地区民児協会長の久野豊子さんは、一見、貧困には見えないが、誰にも相談できず借金で生活に行き詰まった家庭を地域包括支援センターや社協CSW、ケアマネジャー等と連携して支援した事例を報告。

中島さんは「ごみ屋敷のお家が心配、ひきこもりの子どもが今後が不安など、制度の狭間となる相談に応じています。ちょっとした見守りが必要な場合や、地域から心配の声があがった時などに民生委員さんと連携しています」と話しました。大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科の小野達也准教授は「来年から生活困窮者自立支援制度が始まりますが、新たな活動が求められる訳ではありませぬ。今後も地域と専門機関とのつながり役として関係機関と連携し、活動に取り組んでください」と結びました。



パネルディスカッション形式で事例報告が行われました。

の趣味であったファッションの話から一緒に買い物にも出かけることができた。そんなあるとき、Aさんからアイスフリーム屋さんに行ってみたいとの声が。「自分一人ではいけなかったけど、誰かと一緒なら、友達と一緒にならいける。そんな人がほしかった」。この出会いをきっかけにAさんは、就労に向けて自立訓練事業所に通っている。

上記事例の学生とAさんは、CSWとともに企画する自立訓練事業所におけるたこ焼きパー

ティーやみかん狩りといったイベントを通じて今も交流が続いています。

つながる
ひろがる

地域福祉を 支える「ひと」

このコーナーでは、地域福祉の実践を支える「ひと」に話を伺い、「地域での出会い(きっかけ)」や「活動のひろがり」を紹介いたします。



和泉市社協
仲谷 大さん
(入社10年目)

◎4月から社協のCSWと
なっていて感じていることは
ありますか？

昨年度までは総務担当でした。地域全体への働きかけやネットワークづくりもしますが、対象者一人ひとりの自立を支える視点がより重要であると感じています。今後も、地域の人とともに、CSWとしてもっと相談しやすい環境を整えていきたいです。

◎和泉市のCSWの自慢は？

ズバリ、市のCSW事業担当

者と8人のCSWとのチームワークだと思っています。和泉市では、8人のCSWが集う部会を月一回、市の担当も入った会議を月一回、最低でも月二回は8人が顔を合わせ、情報交換や相互のアドバイスをしながら、横の連携を強めています。さらに今年度からは、和泉市と桃山学院大学の包括連携協定に基づく事業として、桃山学院大学の松端克文教授にスーパーバイザーとしてご指導いただき、事例検討にも取り組んでいます。



和泉市役所
妹尾 篤さん
(入社3年目)

◎『活動の可視化』について、他にも工夫されている点は？

生活困窮・複合多問題・支援拒否といったケースが増える中で、市とCSW間の見える化も意識しています。ケースの背景の分析や担当者間の情報共有を目的にケース分類シートのリニューアルを行ったことで、相談の全体像を把握し、CSWとして関わる事の必要性や新たな社会資

源の開発根拠を見出すことなど、8人のCSWの認識の統一にもつながっています。



プリムラ和泉
廣瀬 由里さん
(入社5年目)

◎前述の居場所づくりプロジェクトをやってみての感想は？

学生だからこそその当事者との距離感がポイントでした。「相談

員」では、どうしても支援者であることの「壁」がありました。「自然体」で友達関係に近い学生と一緒にからこそ、心から安心して話ができたのだと思います。

◎今後の抱負を聞かせてください。

支援の手が届かない社会的孤立の状態にある人々を支えられるように、関係機関やCSWの仲間みんなで話し合い、もっと地域に密着したCSWとして、一人でも多くの住民とつながり

をつくっていきたくです。そして、今後も学生との協働による居場所づくりプロジェクトを通じて、自分たちの「役割」や「支援できること」を広く知ってもらいたいと思います。

河南町社協

身体障害者協会と ふれあいカフェ

河南町社協が事務局を担っている福祉団体の一つに河南町身体障害者協会があります。同協会は、障がいのある方の自立更生や会員相互の親睦を深めるため、研修旅行や各種行事に取り組んでいます。

あるとき、会員から「遠くまで研修に出かけるのもいいけど、近所で気軽に集まれる場所があれば」との声があがりました。

そこで、話し合いを重ね、平成26年10月8日にやまなみホールで「ふれあいカフェ」を初めて開催。当日は、会員13人と地域の方など4人が参加し、お茶をしながらゆったりとおしゃべりに花が咲きました。



同協会の事務局担当であり、CSWでもある河南町社協の義和樹さんは「障がいのある方を中心とした居場所としてスタートしましたが、会員さんの声を聞きながら、多くの地域の方と協力し、また、地域での交流を求めているさまざまな当事者、例えば介護者(家族)の方とも交流が広がれば。これから福祉制度も大きく変わるので、行政とも相談しながら、学習の場にもなればよいですね」と今後の抱負を語ります。

和泉市のCSWのサイトはこちら

和泉市 CSW

検索

<https://sites.google.com/site/lianxiyong2/home>